

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2022年2月3日 16:00～17:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部 IRグループリーダー 小池 太郎
説明資料	2021年度第3四半期決算の概要 及び 2021年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティの21年3Q（10-12月）から21年4Q（1-3月）にかけて増益となる背景について説明して欲しい。

A1. 主に自動車生産台数の回復に伴う数量要因で増益を見込んでいます。また、タフマーについても需給がタイトな中、価格改定がしっかりできており交易条件が改善しています。ICT 関連に関しては 3Q に引き続き堅調に推移すると見込んでいます。一方で足元の自動車生産台数減産といった情報もございますので、動向を注視してまいります。

Q2. モビリティにおけるソリューション事業について業績が改善していないようだが、状況について説明して欲しい。

A2. 新型コロナウイルスの影響長期化および半導体不足影響により、試作・少量生産等の受注が回復せず業績改善が遅れています。

Q3. アペル新設プラントの立ち上げ状況に説明して欲しい。

A3. スケジュール通り進んでおり、22年度上期から業績に寄与すると考えています。

■ヘルスケアセグメント

質疑なし。

■フード&パッケージングセグメント

Q4. フード&パッケージングの21年3Q累計（4-12月）の対前年比較で大きく増益となっている背景について説明して欲しい。

A4. 半導体関連や海外農薬の増販により増益となっています。

■基盤素材セグメント

Q5. 基盤素材の21年2Q（7-9月）から21年3Q（10-12月）にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A5. 一部アンモニア系製品での交易条件の改善はあるものの、ビスフェノール A 市況下落による交易条件の悪化により減益となりました。

Q6. 基盤素材の21年3Q（10-12月）から21年4Q（1-3月）にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A6. 在庫評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響の縮小により▲30億円程度、ビスフェノール A の市況の下落により▲30億円程度交易条件の悪化が大きな減益要因となっております。固定費についても、IFRS の会計基準により租税公課の計上時期は4Q一括となっているので費用が増加しています。

Q7. 基盤素材の21年4Q（1-3月）における需給動向で懸念事項はあるか。

A7. 3Qから4Qにかけ自動車関連製品の回復を織り込んでいます。それ以外についても概ね堅調に推移すると見込んでいます。

■ 全社

Q8. 21 年下期の前回公表時からの持分法損益の状況について説明して欲しい。

A8. モビリティについては中国のエラストマーの会社で増益、基盤素材については中国のフェノールの会社で減益となっています。

Q9. 成長 3 領域における主要製品のマージンの考え方について説明して欲しい。

A9. モビリティの自動車関連製品についての多くは原料フォーミュラを採用しています。都度決めについてもしっかり価格対応を行っています。ヘルスケアの不織布についても原料フォーミュラが多く、原料価格上昇局面では交易条件の悪化傾向が続いています。フード&パッケージングの包装用フィルムについては原料上昇が続いておりますが引続き値上げに取り組んでまいります。全般的にあらゆるコストが上昇しており、可能な限り価格転嫁を行っていくことでマージンを確保していきます。

Q10. 原料価格が上昇しているが、財政状態計算書やキャッシュフロー計算書へ与える影響について説明して欲しい。

A10. 原料価格上昇に伴い、在庫の金額や運転資金増加といった影響はあります。ただし、過去より在庫管理強化等をしっかり行ってきており現時点での市況レベルではしっかりと管理できています。

Q11. 25 周年記念配当の考え方について説明して欲しい。また、22 年度の配当についてはどのように考えているのか。目線は通期 120 円/株となり来期に向けても業績への自信があるという考え方でよいか。

A11. 25 周年記念配当は一時的な還元です。来期の業績についても成長 3 領域は増益を一定程度確保できると考えており、そういった点も考慮したうえで現状では通期 120 円/株をベースに還元方針に沿って検討を行ってまいります。

以上